

るといえます。

いまさら言うまでもないことですが、どの大学にも、さまざまな学問的ポリシーを持った、さまざまなタイプの先生方がいらっしやいます。私の場合、こうした「総合科目」方式によって、従来の「一般教育」の授業の場合より、接することのできた先生方の数は、2倍か3倍以上にも及び、それとほぼ同数の学問分野に接することができました。たしかに、1コマの授業でその分野の何がわかるかともいえますが、1コマの授業でその分野のエッセンスはある程度伝わります。また、たとえ一部分であっても、一人ひとりの先生方の学問に対する「ひととなり」に接することができたということが、「一般教育」期にある学生にとっては意義があると考えます。さらに言えば、できれば、こうした科目を受けた上でその後の専攻を決めるということにも意義があるのでは、と考えます。

「総合科目」には、各科目ごとにごくおおまかなシラバスがありました。そのシラバスをもとに、次の時間の先生はどんな話をされるのか、またどんな先生なのかと、どの科目のときも毎時間の授業を楽しみに

していた記憶があります。ただし、敢えて個人的な反省を言えば、どの科目を取るかは全く自由であったために、自然科学関係の科目はほとんど取らず、人文科学あるいは社会科学関係の科目に偏ってしまったことが、若干心残りではあります。

本学におきましても、部分的にはこうした形態で進められている授業があるようです。私は、こうした科目に対する学生の反応については、残念ながらもまだ聞き及んでいませんが、もし仮に、(いわゆる「一般教育」の未経験者ですので、くどいようですがもう一度)もし仮に、「一般教育」の新しい方向を模索しようという状況に立ち至ったと仮定するならば、上述した「総合科目」方式が、今後の「一般教育」のための、一つの選択肢として検討されてもよいかもしれません。

以上、ある状況を仮定した上で、私の自己紹介(というよりも経験紹介)を兼ねながら述べてきたために、きわめて無責任な内容になってしまいましたが、本学における「一般教育」のために、この「総合科目」方式が何らかの形で参考になれば幸いです。

タップ・ダウン & バトム・アップ

一 教官

小文は、筆者の無知と未熟さの故に、誤解している点も多いのではないかとと思われる。もしそのような所があれば何卒ご教示

を賜りたくお願い申し上げます。

今回の一般教育等教官定員の「再配置」

は、学部長間の交渉によって決定されたと
言われるが、その際、一般教育主事はどう
いう立場にあったのであろうか。

「再配置」されるのは、他にもない一般
教育等教官定員であるわけだから、一般教
育主事も重大な関連があったと言っても
よいのではないだろうか。

一般教育主事は、それでもやはり学部長
間の交渉の場には、陪席することはなかっ
たのであろうか。

それにつけても学部長間の交渉は、「再
配置」についてどういう原則によって行わ
れたのであろうか。

「再配置」の結論からの憶測でしかない
が、各学部長の姿勢は少しずつ差があるよ
うに思われる。すなわち、一般教育等教官
定員の学科目の内容と専門学部の専門性の
関連にはこだわることなく教官定員を受け
入れている学部もあれば、学部の専門性との
関連を重視して受け入れている学部もある
一方、理工系学部の創設を視野に入れて、
教官定員の「再配置」に対する要求を留保
している学部もある等、一様ではないよう
に思われる。

本学が総合大学ではないこと、特に人文・
社会系学部と理工系学部がないことは周知
の事実である。

従って、今回の「再配置」には、理工系
学部の創設を視野に入れた一般教育等教官
定員の「再配置」が行われていることは、

評価されて然るべきものと思われる。

問題は、人文・社会系学部の創設との関
連であるが、一般教育等教官定員のうち、
人文・社会系教官の「再配置」の原則は、
理工系教官定員の場合とは異質のように思
われる。

それは人文・社会系教官定員のルーツを
確定し、既存の学部へ「再配置」という
原則のように思われる。学科目と専門学
部の専門性との関連も、強くはないし、人
文・社会系学部への展望も明らかではない
ように思われる。

「再配置」のための「再配置」であれば、
受け入れる専門学部にとっても、「再配置」
される教官定員にとっても不満はついてま
わるのではないか。

少なくとも将来構想という視点から見ると、
理工系学部の創設につながる「再配置」と、
人文・社会系学部への展望が不透明な
「再配置」とが並存していると言えるので
はないかと思われる。

いずれにせよ、今回の「再配置」につい
て公的な自己点検・自己評価がなされるこ
とを期待したいと思う。

尚、筆者は今回の「再配置」に意義を申
し立てたり反対を唱えようとする者ではな
いことをお断りしておきたいと思う。

('94. 6. 30)